

# 丸川珠代 環境大臣と語る



ふるさと飛騨のこれからの探るシリーズ企画

「大臣と語る飛騨の近未来」、第2回目のテーマは環境です。

ファシリテーターの金子一義代議士に橋渡しをいただき、

地元で環境の仕事に携わるメンバーが

丸川珠代環境大臣を訪ねました。



前列中央、丸川大臣 後列左から、六角 裕治さん・松井ゆう子さん・大森清孝さん・金子一義代議士



松井ゆう子さん  
高山市役所  
環境政策部環境政策推進課



大森清孝さん  
飛騨生熊調査研究室代表  
国土交通省自然環境アドバイザー

## 人と野生動物との共生の鍵とは

六角 今日飛騨から参りました。

環境の仕事に携わっている市民が質問させていただきますので、ご意見やアドバイスをいただけます幸いです。市民が国政の現場を訪ねて大臣に直接お話を伺い、その内容を誌面で紹介して、飛騨の未来を考える契機にしようというのが企画の趣旨です。よろしくお願います。

丸川 こちらこそ、よろしくお願います。さるぼぼという小さいお人形は、昔、祖母が旅行した際に買ってきてくれたので、子どもの頃から家にもありました。飛騨出身の仲の良い友人もいるのですが、まだ飛騨へは行ったことがなく、いつか行ってみたいと思っています。

六角 ぜひお越しください。それでは、まず飛騨の自然環境について大森さんから説明させていただきますま

す。

大森 私は20年以上前から地元で環境アセスメントの仕事をしています。飛騨は3190mの穂高から190mの富山寄り低地まで3000mもの標高差がある自然の宝庫。南北1000km以上の差異に匹敵する植物分布が見られ、日本の自然を凝縮したような多様性を持っています。守るべき自然豊かな地域ですが、近年、クマ、イノシシ、シカなど大型野生動物の里への侵入が増えて困っています。調査した結果、人が山に入らなくなったという意外な要因が分かりました。

彼らの天敵は人ですから、本来、人が入るような場所を嫌い、近づきません。かつて人々が山の恵みをいただいて生活していた時代は、そこが緩衝地帯(かんしょうちたい)になっていたのですが、今は自然を守るために立ち入り禁止となったエリアが多く、山には動物だけ。緩衝地帯が

## 地元からの発信力で山へと誘導

大森 中部山岳国立公園内にある昔の登山道や林道は、多くが立ち入り禁止ですが、人が歩けるようにした方が野生動物との軋轢(あつれき)を減らす上でも登山者にとって

も良いと考えます。乗鞍は安全に登れる良い山なので自然を楽しみながら歩ける場所になるとよいと思います。しかし、昔の登山道を整備したくても、自然公園法がネックになってしまつたのです。

丸川 来年から山の日が設けられ、8月11日が祝日になります。これを

すでに始まっている変化に対してどうするのか、どうやって守るべきものを守っていくのか、皆さまに考えていただきたいのです。

大森 自然を見守るだけではなく、人間がしつらえて守っていくということも大切だと思います。

六角 来年の山の日に向けて、私たちが飛騨の自然環境をどう守っていくのか、自然と共生をどう実現していくのか、世界に発信していきたいと思っています。

丸川 なるほど。新しい共生を模索していかなければいけない時代だということですね。温暖化にしても野生動物の問題にしても、私たちの生活は自然に大きな影響を与えています。温暖化による影響はすでに現れていますが、政府では、これからますます深刻化する温暖化に備えるための計画を初めて策定しました。

丸川 なるほど。新しい共生を模索していかなければいけない時代だということですね。温暖化にしても野生動物の問題にしても、私たちの生活は自然に大きな影響を与えています。温暖化による影響はすでに現れていますが、政府では、これからますます深刻化する温暖化に備えるための計画を初めて策定しました。

丸川 北海道の下川町は公共設備の熱源の6割にバイオマスを利用することを目指され、定住促進住宅を建てて全てバイオマスで熱供給をする仕組みを作られました。そして数年後には社会動態(※注釈)の人口増を経験されています。おっしゃる通り、エネルギーが地域の中で循環する仕組みが大切で、下川町では再生可能エネルギーを活用するための補助事業を進めながら、どういったことができるか研究中です。



ファシリテーター 金子一義氏

前回好評をいただきました「大臣と語る会」の第2弾は、飛騨の自然環境やエネルギー開発をテーマに、丸川珠代環境大臣との座談会が実現いたしました。丸川大臣には、就任されたばかりで多忙にもかかわらず、1時間近く割っていただきました。飛騨は中部山岳国立公園や白山国立公園などを抱く自然豊かな土地です。今回の座談会にもありました通り、飛騨地域の自然保護や自然エネルギー開発への取り組みは全国各地と比較しても進んでいる地域である一方、まだまだ課題はあります。豊かな自然を守り続けていくうえでも、自然との共生を考え直すこと、そして自然をいかした循環型のエネルギー開発を進め、国内中山間地の手本となるような地域にしていきたいです。1986年の衆議院議員選挙初当選より、連続当選10回の地元選出国会議員。初代行政改革担当大臣、第11代国土交通大臣などを歴任し、現在は自由民主党衆議院議員総会長

コーディネーター 六角裕治氏

飛騨・世界生活文化センター 指定管理者飛騨コンソーシアム 統括

## お知らせ

今号の「大臣と語る会」は少子化・女性活躍担当大臣の予定でしたが、10月の組閣にともない掲載月を変更し、子育てや福祉、仕事をテーマに来年掲載予定です。



「Fly to Maruoka」で飛騨の皆さんに向けた丸川大臣のメッセージ動画をチェック!

丸川 確かにもったいないですね。環境省や観光庁も努力しているのですが、地元発信の中で観光客を山へ誘導する仕掛けをつくっていく必要があります。外国人観光客が増えているのに山に入らないのは仕掛けがないからです。

大森 はい、定着しつつあるガイドツアーなどをもっと膨らませて人を山へ誘導する仕掛けをつくっていく必要があります。外国人観光客が増えているのに山に入らないのは仕掛けがないからです。

丸川 高山市乗鞍山麓五色ヶ原の森や飛騨小坂200滝が環境省のエコリズム大賞で優秀賞を受賞されていますし、環境省が予算をつけてエコリズムを支援する試みが飛騨市で始まっていますね。大森 はい、定着しつつあるガイドツアーなどをもっと膨らませて人を山へ誘導する仕掛けをつくっていく必要があります。外国人観光客が増えているのに山に入らないのは仕掛けがないからです。

## 未来に向けて

### 新しい共生の形を模索

松井 私は高山市役所で環境政策を担当しています。高山市は日本一広い市ですが、市域の約92%が森林で、なかなか山に手が入りません。市長は「自然エネルギー活用日本一の環境都市」をマニフェストに掲げており、特に木質バイオマスの活用を図っていきたく考えています。自分たちのエネルギーを地元で生みだし、利用していきたいのです。

丸川 我が国は2030年に向けたエネルギーミックスの目標を立てていますが、電源構成における再生可能エネルギーの比率は22%24%で、その中でバイオマスはおおよそ4%程度を見込んでいます。現状から相当引き上げなければならず、高山市が日本一という目標を立てて取り組んでいらいっしょやることは心強い限りです。ぜひ力を合わせて、できることを一緒にやらせていただきたいと思っています。自前エネルギー供給ができるということは、生産した価値やお金を外へ出さなくていいわけで、地域で経済が自立して回っていくためにとても重要です。地域の

丸川 我が国は2030年に向けたエネルギーミックスの目標を立てていますが、電源構成における再生可能エネルギーの比率は22%24%で、その中でバイオマスはおおよそ4%程度を見込んでいます。現状から相当引き上げなければならず、高山市が日本一という目標を立てて取り組んでいらいっしょやることは心強い限りです。ぜひ力を合わせて、できることを一緒にやらせていただきたいと思っています。自前エネルギー供給ができるということは、生産した価値やお金を外へ出さなくていいわけで、地域で経済が自立して回っていくためにとても重要です。地域の

丸川 我が国は2030年に向けたエネルギーミックスの目標を立てていますが、電源構成における再生可能エネルギーの比率は22%24%で、その中でバイオマスはおおよそ4%程度を見込んでいます。現状から相当引き上げなければならず、高山市が日本一という目標を立てて取り組んでいらいっしょやることは心強い限りです。ぜひ力を合わせて、できることを一緒にやらせていただきたいと思っています。自前エネルギー供給ができるということは、生産した価値やお金を外へ出さなくていいわけで、地域で経済が自立して回っていくためにとても重要です。地域の

丸川 北海道の下川町は公共設備の熱源の6割にバイオマスを利用することを目指され、定住促進住宅を建てて全てバイオマスで熱供給をする仕組みを作られました。そして数年後には社会動態(※注釈)の人口増を経験されています。おっしゃる通り、エネルギーが地域の中で循環する仕組みが大切で、下川町では再生可能エネルギーを活用するための補助事業を進めながら、どういったことができるか研究中です。



ファシリテーター 金子一義氏

前回好評をいただきました「大臣と語る会」の第2弾は、飛騨の自然環境やエネルギー開発をテーマに、丸川珠代環境大臣との座談会が実現いたしました。丸川大臣には、就任されたばかりで多忙にもかかわらず、1時間近く割っていただきました。飛騨は中部山岳国立公園や白山国立公園などを抱く自然豊かな土地です。今回の座談会にもありました通り、飛騨地域の自然保護や自然エネルギー開発への取り組みは全国各地と比較しても進んでいる地域である一方、まだまだ課題はあります。豊かな自然を守り続けていくうえでも、自然との共生を考え直すこと、そして自然をいかした循環型のエネルギー開発を進め、国内中山間地の手本となるような地域にしていきたいです。1986年の衆議院議員選挙初当選より、連続当選10回の地元選出国会議員。初代行政改革担当大臣、第11代国土交通大臣などを歴任し、現在は自由民主党衆議院議員総会長

コーディネーター 六角裕治氏

飛騨・世界生活文化センター 指定管理者飛騨コンソーシアム 統括

## お知らせ

今号の「大臣と語る会」は少子化・女性活躍担当大臣の予定でしたが、10月の組閣にともない掲載月を変更し、子育てや福祉、仕事をテーマに来年掲載予定です。